

現在の三内丸山遺跡

縄文時遊館

12 展示室 「さんまるミュージアム」

三内丸山遺跡の重要文化財 503 点とその他の出土品約 1,100 点を展示しています。

また、縄文人の生活を各場面ごとに再現しながら、豊かな縄文文化をわかりやすく紹介しています。



はじめに

三内丸山遺跡は、青森県にある縄文時代の拠点集落跡です。

これまでの発掘調査で縄文時代前期中葉から中期末（約 5500 年前～ 4000 年前）の大集落跡や平安時代の集落跡（約 1000 年前）、中世末（約 400 年前）の城館跡の一部が見つかっています。

特に、縄文時代の大集落跡からは、たくさんの竪穴住居跡、掘立柱建物跡、大量の遺物が捨てられた谷、大規模な盛土、大人の墓、子供の墓、土器作りのための粘土採掘穴、貯蔵穴、道路跡などが見つかりました。

出土した動物や魚の骨、植物の種子や花粉からは、当時の自然環境や食生活などを具体的に知ることができます。

また、ヒスイやコハク、黒曜石は遠方との交流を、漆器は専門的な技術を持った人がいたことを物語ります。

このように、三内丸山遺跡は、縄文時代の人々の生活を具体的に知ることができる貴重な遺跡として、2000 年には国の特別史跡に指定されました。また、2003 年には出土遺物 1,958 点が重要文化財に指定されました。

青森県では、縄文時代の「むら」を体感できる公園として、三内丸山遺跡の整備を進めています。

1 環状配石墓

2 道路跡

3 南盛土

覆屋内では盛土の断面の実物が見学できます。約 1000 年かけて積み重ねられた歴史の厚みを感じることができます。



4 大型竪穴住居（復元）

復元したものは長さ 32 m で、11 棟見つかった大型竪穴住居跡のうち最大のものでした。



5 大型掘立柱建物（復元）

高さ 14.7 m の建物として復元しています。覆屋内では検出された柱穴を見学することができます。



6 子供の墓（埋設土器）

覆屋内では、埋設土器の実物を見学することができます。



7 北盛土

盛土に埋もれている多量の土器の出土状態を、実物で見学することができます。

8 北の谷

11 竪穴住居（復元）

上屋は、茅葺き、樹皮葺き、土葺きの 3 種類の復元をしています。



10 大人の墓（土坑墓）

長さ約 2 m の細長い墓穴で、大人を埋葬した遺構です。道路を挟んで列状に並びます。



9 掘立柱建物（復元）

高床建物として 3 棟を復元しています。

